

令和2年度 学校評価表

学校教育目標	学校教育目標 「自ら学び、考え、自立した行動ができる「きさ」の子どもの育成」
--------	--

重点目標	真剣(主体的な学び・深い学び)に学び、人を大切にする児童の育成
------	---------------------------------

評価計画				
経営目標		評価指標	具体的な取組・方策	
中期	短期			
生きる力の育成	確かな学力を育成する	学習規律を定着させる。 主体的・深い学びの充実を図る。	・学習規律が身に付いた児童を88%（昨年度85%）以上にする。 ・自分の意見を進んで発表できる児童の割合を60%以上にする。	・「相手を見て、反応しながら（うなずき、返事）、相手の意見に対する自分の考えを持って聴き、自分の意見をつなげる」ことを重点に指導し、学習規律の定着及び主体的・深い学びの充実を図る。
		学力を確実に定着させる。	①全教科の単元テストで80点以上の児童の割合を各学年85%（昨年度81%）以上にする。 ②三次市学力到達度検査（基礎・活用）で、全国平均を上回った学年の割合80%（昨年度75%）以上にする。	・実態に合った指導を工夫し、全ての児童の「わかる・できる」を保障する。 ・ ノート指導に取り組み、基礎学力の定着を図る。 ・きさっ子タイムやドリルタイムを複数体制にし、計画的に進める。
		自学力を育成する。 (小中一貫教育)	・「自分から進んで学習する」児童を全学年 70% 以上にする。	・考えの根拠を明確にしなが、全ての児童の「わかる・できる」を保障する。 ・家庭学習で予習や復習などの自主学習に取り組ませる。
	豊かで健やかな心身を育成する	自己有用感の向上と礼節と規範意識の定着(小中一貫教育)	・自分のよさに自信を持ち、友達の良さを認められる児童を育てる。自己有用感を持つ児童を80%以上(昨年度75%)にする。 ・あいさつのできる児童を85%以上にする。	・お互いを認め合い、つながりを深める集団づくりに努める。 ・研究主題を「自己を見つめ、人としての生き方について考え、よりよく生きようとする力を育む道徳教育の創造～小・中をつなぐ主体的で対話的で深い学びの授業づくりと道徳学習プログラム「吉(よ)き舎(やど)りプログラム」を通して～と設定し、成果を上げる。 ・重点目標は定期的に交流し、アンケートやi-checkで分析しPDCAサイクルで取り組む。
		体力を向上させる	・新体力テストで、70%以上(昨年度61%)の項目が県平均かつ、全国平均を超えるようにする。	・新体力テストの個人記録を知らせ、県平均等を参考にしながら自己目標を設定させる。 ・児童会で楽しい外遊びを紹介したり、全校行事で取り組んだりして、体力づくりの意識付けをする。
	働き方改革	信頼される学校づくりを行う	・小中連携の充実を図り、月に1回以上、学校だよりやホームページ等で保護者や地域に情報提供を行う。保護者アンケートで肯定的な回答の割合を85%以上(昨年度83%)にする。	・「きさ」小中一貫教育推進協議会の計画のもとに、小中9か年を見通したためざ子ども像に向け、連携教育の実施、充実を図る。 ・学校だより、ホームページで小中連携教育の取組を具体的に分かりやすい内容で保護者、地域に情報提供を行う。児童アンケートや保護者アンケートを実施し、小中連携教育に関わる保護者等の理解を把握し、取組に生かす。
働き方改革		教職員の児童に向き合う時間の割合を増やす。	・働き方改革により、児童に向き合う時間の割合が増えた実感を感じる教職員の割合を50%以上(昨年度33%)にする。	・学期ごとのアンケート、メンタルヘルスチェックにより実態を把握し、学校衛生委員会、企画会、総務会の取組を行う。

(評価) A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100 C: 60≦(もう少し)<80 D: (<できていない)<60